

令和7年度 名古屋市立瑞穂小学校 学校経営方針 令和7年4月1日

名古屋市では、令和5年9月に、自律して学び続ける子を育成することを目指す教育の基本的な考え方「ナゴヤ学びのコンパス」を示しました。

本校でも、この方針を受け、子ども同士の学び合いがある授業や個別最適化された授業など、子どもたち一人一人の未来にとって、意義のある教育活動を実現していきたいと思っています。特に今年度は、全国小学校理科研究協議会研究大会愛知大会（全小理愛知大会）が11月20日、21日になごや小学校、船方小学校、そして本校、瑞穂小学校を会場として行われます。この全小理愛知大会では、主体的で子ども中心の学びと、理科を学ぶ幸福感の2つの大きな柱があります。本校ではこの二つの柱を「科学のチカラ×みんなのチカラ」と表現し、科学的な問題解決を『子ども・教師・自然事象』の3項関係のチカラによって実現します。この取り組みが、子どもたちの未来にとって真に意義のある取り組み、言い換えれば学びの幸福感へとつながるような研究にしていきます。学校教育努力点については、全小理愛知大会への取り組みと、それに関連する生活科学習での取り組みによって行っていきたいと思っています。

今年度は、全市でキャリア教育の取り組み、キャリアタイムが始まります。本校では、キャリアタイムにおいて、子どもたちが自分の将来に対して、夢や希望、目標をもち、主体的に学んでいけるようになることを目指します。日々の学習が子どもたちの将来につながる真に意味のあるものとなること、そのためにはどのようなことが必要なのか、そのことを全職員で考えていきたいと思っています。

学校教育目標は、校訓である「つよく、あかるく、いっしんに」を大切にしながら「知・徳・体の調和のとれた健全で自律した児童の育成」を継承していきます。

私たち教職員は、希望あふれる我が国の未来、子どもたちの未来を造るプロフェッショナル集団となることを目指します。子どもたちの将来の幸せに携わる我々の仕事は、誇り高くやりがいのある仕事だと思っています。職員一人一人がそれぞれの個性を發揮し、子どもたちの成長をコーディネートしていく、そんな教職員集団、そんな学校になればと思っています。

瑞穂小学校校長 荻野隆美 （令和7年度第1回職員会議にて）